

FIM FACTORY

富士通電子デバイス工場のご紹介
Vol.2
FIM宮城事業所



**富士通インテグレートドマイクロテクノロジー株式会社
宮城事業所**
〒989-1304 宮城県柴田郡村田町大字村田字西ヶ丘
1番地の1 TEL.0224-83-5111
1982年4月設立(旧FJM)



ACCESS

- 鉄道をご利用の場合
JR東北線/東北新幹線 仙台駅・白石蔵王駅、白石駅下車
タクシーで約30~40分(高速道路利用)
- お車をご利用の場合
東北自動車道 村田インターチェンジより約2分

◆村田町の様子

村田町は、伊達家の家臣小山九郎業朝なりともが築いた村田城の城下町です。古くから山形と仙台を結ぶ分岐点だったため商都として賑わい、当時の隆盛ぶりがうかがえる立派な店蔵や商家が今でも町の中心に残っています。気候は東北といえども穏やかで、冬の積雪はほとんどありません。町には伊達家ゆかりの龍島院や、「奥州の蛇藤」で有名な白鳥神社があります。そら豆が名産で、うどんやアイス、お菓子などさまざまな加工品が楽しめます。

生産革新で日々進化し、 活気あふれる宮城事業所

多品種少量生産に即応できるロジックの旗艦工場

富士通インテグレートドマイクロテクノロジー(FIM)は、国内富士通グループの半導体後工程専業会社です。会津若松に本社並びに会津事業所、岐阜、鹿児島、そしてここ宮城と、4事業所があります。それぞれの事業所が特長的な製品を生産しているなかで、宮城事業所はFIMロジックLSI売上高の60%の製造を行っています。なかでも、最先端テクノロジーのASICを搭載するBGAやLGA、さらにはSIPなど先端製品の旗艦工場の役割を担っています。

村田町「村田工業団地」内に位置する当工場は約69,500m²の広さがあり、敷地内では565名の従業員のうち、約7割が交替勤務による24時間体制で稼働しています。

ASICを中心に製造していることからもおわかりいただけるように、当工場では「変量生産・少量多品種」が製造ラインのメインとなっています。昨今はパッケージが日々進歩しており、小型・薄型のFBGAやLGAに加えてよりカスタマイズされたSIPのニーズが高まっています。そのため、毎日違った品種を生産し、その数1ヶ月に約2,500品種にもなります。また、当工場では製造する製品群の70%前後が1,000個未満の小ロット品のため、安定供給には格段の注意を払って取り組んでいます。



事業所の前庭に、ハナミズキの生産革新記念樹が。2004年4月に植樹。

ものづくり強化の生産革新活動

今、宮城事業所内は、これまでにないくらい活気にあふれています。それは本年3月に開催された「FIM生産革新統一大会」からTPS方式[※]の導入を開始し、4月以降毎月1回、TPSコンサルティングの先生を招いて指導会を実施しているためです。指導会では、コアのメンバーとなる現場の改善主任が積極的にTPSを勉強し理解を深め、先生の指導内容をすばやく消化しています。自ら考えそして改善していく楽しさ、さらには改善すれば良くなる、どんどん良くなるということに気付きはじめています。まさに、ものづくりの現場が起点となって宮城事業所全体、さらにはFIM全体に生産革新活動を展開しています。

今では設備を並べる角度や、装置の位置、作業の姿勢、工具の管理方法など、細かいことですが、現場の人間でなければ気付かない部分を主任はじめ全員で考えることで、驚くほどの効果が上がっています。不都合な部分があれば、次の日にでもすぐに変更し改善をめざすため、たった1日出張に出ていた従業員が次の日に出社してみると、「一昨日あったものがない」という事態に直面することもしばしば。こうしてTPS導入から約半年が過ぎましたが、明らかに変わってきたことを全従業員が実感しています。TAT短縮、コスト削減ばかりでなく、品質も確実に安定してきました。これから2年、3年後は今までとはまったく違った工場に生まれ変わっているのではないかと、期待が高まります。

※TOYOTA PRODUCTIVE SYSTEMの略。トヨタ生産方式。

Message



Akihiro Kubota

宮城事業所長 **窪田 昭弘**

宮城事業所では今、工場の主任を核とした生産革新活動が、堰を切ったように展開しています。この生産革新活動が継続的に広く深く確実に浸透するために、すべての従業員が「自分が主役」という気持ちで取り組んでもらいたいと思っています。革新は一部の従業員や上層の者が行うのではなく、皆が参加して実行していくのです。そのために「学ぶ→考える→行動する、そして気付く」という成長の循環ができるように日頃から呼びかけています。そして半年が経った今、徐々に効果が出てきていますが、さらにスピードを上げて市場競争力のある強い工場(TAT・コスト・品質)にします。お客様が工場見学に来られた際、「この工場の製品だったら安心して購入できる、購入量をもっと増やしたい」と思っていただけるような工場を実現したいと思います。そして一人ひとりが考え、行動して世界に誇れる半導体後工程工場の実現をめざします。

ピックアップ @ FIM宮城事業所



Yuki Yasuda

製造部
ものづくり技術課

安田 祐樹

1999年入社

工場内問題解決の「なんでも屋」です

— 仕事の内容を教えてください。

安田 所属は製造部で、直接ものづくりに関わるフォローエンジニアをしています。主にモールド工程部分に携わっています。生産計画どおりに稼働しているかチェックしたり、何か問題が起こったときにはフォローしたり。工場に対するサービスをするという、言うなれば「なんでも屋」です(笑)。

— 苦勞することはありますか。

安田 この工場は少量多品種生産をしているので、毎日設備の段替えが大変です。それから、次々と新たな製品が投入されてくるので、それに対し新しい技術で臨みます。するとまた新たな問題が発生するんです。それらを解決するためには一から勉強することが多く、苦勞だらけです。また、私のような若輩者が工場のみなさんを指導しなければならぬので、信頼してもらえるよう努力が必要です。

— では、仕事の楽しさという部分を聞かせてください。

安田 確かに苦勞すること、努力することも多いですが、むしろ今は

仕事を楽しんでいます。なぜかという、全事業所的に取り組んでいる生産革新の効果が、確実に上がってきているからです。「これができるな」と思ったことがすぐに実現に向けて動き出すんです。日々変化してるんですよ。今までできなかったことができるとか、激しく変わるとか、改善されるとか、そういうのが楽しいんですよね。

— 仕事以外で日々楽しんでいることはありますか。

安田 昔サッカーをやっていたこともあり、今はいくつかのフットサルチームに所属しています。会社にも同士が集まったチームがあるんですよ。この仲間とは、金曜の夜は飲み会という名のミーティングを開いて、そのまま土曜はフットサル、というお決まりのコースを一緒に楽しみます。その他にはライブに行くのが好きで、毎年若者に交じって北海道のロックフェスティバルまで出かけています。それから、自分の犬を実家に置いて来ているので、時々は見に行き行って癒されています(笑)。

— 最後に今後の抱負や目標を教えてください。

安田 生産革新の命題のもと、いろんなことにどんどん変化を加えていきたいです。そのためにはたくさんの知識を身につけることだと思います。事業所長がかかげる「学ぶ→考える→行動する、気付く」の行為の中で、私はまだ「学ぶ」の段階ですから、考えて行動できるようになりたいです。そして自分が行動することで、工場全体が驚くほど効率良く動くようになり、自分も業務をスムーズにこなせるようになれば、もっといろんなことに挑戦できると思います。確かな生産方式を早く確立したいですね。



フットサルチーム「ルバン」のメンバー。練習は試合で。実戦あるのみです。

グリーン活動 —すべてをグリーンに

富士通グループ環境方針、FIM環境方針に基づく環境保全の取り組みとして、「環境配慮工場」グリーンファクトリーをめざし、宮城事業所も2004年4月からグリーンプロセス活動とグリーンファシリティ活動を実施しています。これらの活動により環境問題が身近になり、事業所全体が一丸となり取り組みやすくなりました。また、廃棄物ゼロエミッションも今年9月に達成。その他では製品環境対策や有害物質対策といった環境リスクの予防にも積極的に取り組んでいます。これらの活動の社内啓蒙として、ひと月に1回環境新聞「Eco通信」を発行しています。一般的に、会社としてトップマネジメントの範囲になりがちな環境活動ですが、こうした活動・啓蒙により従業員一人ひとりが自分のこととして取り組めるよう努力しています。



Eco通信。「浅間山の噴火」など、時事の問題と組み合わせたり話題も工夫し、毎月発行しています。